

(1)

問一 ㉠ 推奨 ㉡ 誘致 ㉢ 皮膚 ㉣ 婚姻 ㉤ 排除

問二 資本主義は、経済システムとしてだけでなく、文化的システムとして特定の文化の好ましい要素に交換価値をつけて商品化することで、文化そのものを作り出しているということ。

問三 資本主義は、商品化によって文化を作り出しつつ、自らが作り出した文化を利用し、また文化的・社会的制度の力を得ることによって、あらゆる場所を境界化・秩序化して、資本主義の基盤となる利潤を最大化しているということ。

問四 資本主義は、資本の蓄積という自らの目的に合わせて、日常生活のあらゆる面を区分し、文化的に秩序づけ、特定の意味や価値を持たせることによって、消費活動を促すような場所を作っているということ。

(2)

問一 ㉠ ひざごぞう ㉡ しっそう ㉢ ぎょうてん

㉣ くんかい ㉤ でいすい

問二 インテリ様と呼ばれる若い衆らしく、隣人の行方不明という問題なのに、世間の未解決事件や裁判の事例を列挙してそれを「行方不明」と奇を衒った言い方で論点をずらし、結局Mさんの失踪を解決するには役に立たない発言をしたこと。

問三 M氏の「人間を信頼できなくなっちゃ、おしまいだ」という言葉や奥さんの「信頼できるのはあなただけ」という言葉に青木君がとらわれ、オートバイの暴走に駆り立てられているから。

問四 アパートの他の住人からM氏の美人の奥さんという仲になっていると疑われても手助けしようとするも、Mさんとの関係性を疑われる。さらに奥さんに高価な牛肉を届けたことで二セ札を造っているとまで怪しまれて警察に密告され、とうとう奥さんからM氏の失踪に青木君が関係しているにちがいないと疑われて、純粋な親切心からの友情が裏目に出てどうしようもなく身動きのとれない状況に追い詰められ、逃げ出したくなったから。

(3)

問一 ㉑ 少しも露がとどまっていられそうもないほどに

㉒ 姿が丸見えになっては困る

㉓ 何の不満もないほど素晴らしい

問二 野分の風で巻き上げられた御簾の間から、普段は部屋の奥にいて目にする事のない紫の上の気高く美しい姿が見えているということ。

問三 紫の上は目になると平常心ではいられない美貌であり、見る人が恋心を抱くかもしれないと光源氏が危惧していると理解している。

問四 自分が紫の上を垣間見て、その美しさに心惹かれていると光源氏に疑われること。

問五 義理の母である、父の妻へ恋心を抱いて苦悩すること。

(4)

問一 ㉑ すでに ㉒ あに

問二 なんと当然のことではないか。

問三 深謀遠慮(にして)化を知るの士無きに非ざるなり。

問四 言動を忌みはばかり禁令が多く、忠言を言い終わらないうちに死刑にされるといことが、天下の士に恐れ慎んで口を閉ざして意見を進言しないようにさせてしまったから。

問五 昔の優れた君主は、忠臣に諫言させず、智士に綿密な計画を進言させないことや、よこしまな臣下が真実を報告しないようになることが、国家を損なうことになると思われるということ。